

議事録兼報告書

会議名称	第2回伊那市行政改革審議会
日時	平成30年9月26日(水) 午後1時30分～午後3時15分
場所	庁議室
議題	(1) 平成30年度伊那市事務事業外部評価報告書(案)について (2) その他
議事内容	
<p>1 開 会 (総務部長)</p> <p>2 あいさつ (上野山会長)</p> <p>今年の秋は稲刈りが終わったところもあり、例年より10日くらい早いとされている。この季節は健康管理が大事なのでご自愛いただきたい。本日は、外部評価報告書を確認いただく。短時間であるがよろしくお願ひしたい。</p> <p>3 協議事項 (上野山会長)</p> <p>(1) 平成30年度伊那市事務事業外部評価報告書(案)について</p> <p style="padding-left: 20px;">－資料に基づき説明(事務局)－</p> <p style="padding-left: 20px;">＜企業の誘致＞ A班代表 上野山会長より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の手立てとして、地元へ働く人をどう呼び込むか考えてほしい。大手企業が来ると中小企業から従業員が引き抜かれるので、働き手の確保を考えてほしい。(委員) →労働者の確保では商工振興課で担当しており、移住施策の視点では地域創造課が担当している。有効求人倍率が高止まりする中で民間企業では人材確保の難しさがある。伊那市では出身者の子どもに帰ってきてもらうためキャリアフェスティバルなどの施策を行っている。更なる施策は必要であるので、「その他」の意見に加えてもよいのでは。(事務局) ・横断的に施策を取ることが望ましい。報告の際に口頭で付け加えることとして良いか(上野山会長) →報告で良いのでは、市長も承知していると思う。(委員) ・報告の際に、付け加えることとする。(上野山会長) <p style="padding-left: 20px;">＜高齢者いきいき健康券交付事業＞ A班代表 上野山会長より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高額所得者に対しては縮小すべきとあるが、交付枚数は増やすべきとしている。そのあたりの加減が難しい。(鈴木副会長) →利用率が65.7%と低い。高額所得者にとって2,400円はさほど影響がないと思われるので、必要な方に手厚く配った方が良いとの考え方。文言をわかりやすく記載いただきたい。(上野山会長) ・高額所得者はどれくらいを示すのか整理する必要がある。(委員) →利用率全体の数字で誰が使っていないかを把握すべき。サンプリングでも良いので解析して、的確な配布を進めるべきと思う。(委員) ・家族構成でも異なる側面もあり複雑である。配布は民生委員に聞いてもよいのでは。(委員) →2,400円相当は平等に配り、バス、タクシーの距離に応じて加算している。外出することを主眼に外出する機会を増やすために続けている。使い方を調査し分析する必要もある。 	

・紙おむつは3回買えば終わる。何が必要か調査する必要があると思う。(委員)

・利用状況の分析を行うことを加えることとしたい。(上野山会長)

<就農支援> B班代表 鈴木副会長より

・この事業によって人口が増えるのか疑問に感じる。新たに人を呼び込み、農業のプロフェッショナルに育成するのは難しい。会社員であれば年間を通じて同じ収入が得られる。農業で生活できるのか疑問に思う。

・この事業があることで、会社勤めが終わった後に家業の農業に戻る人もいることから効果があると感じている。他の地域から来た方もいることから、そういう人が増えるとよい。(鈴木副会長)

・根本的に問題があれば失敗すると思うが、今回の調査の中ではそうした課題は顕在化していない。(委員)

・事業内容の見直しとして異論がないようなので、そのようにまとめていく。(上野山会長)

<林業振興団体助成> A班代表 上野山会長より

・県の森林税は使いきれず余る中で、森林整備を担う生産森林組合では足りない側面があることから、県に対して意見を言ってもよいと思う。森林整備を請け負う団体もあるが、個人有林の一人あたりの面積が小さいことから、森林整備するためには団地化する必要がある。地権者から森林整備の意思を確認する手続きは森林組合が行っている。そこまで行える組織は他には無いと感じる。(委員)

・常円寺では横山の森林整備を委託しており、間伐や植林、下刈り等を行っている。(上野会長)

・現場で作業するグループは増えてきている。まとまった面積があればできるが、ごく一般の私有林は、面積を団地化するのに手間がかかる。小さな森林の所有者が多く、入会で分けられた山は、林地境がわからない。どう管理していくかマネジメントの部分が重要。(委員)

・森林組合と生産森林組合は異なるか。(上野山会長)

→森林組合は上伊那森林組合のみで森林整備を担っている。生産森林組合は財産区へ移行しなかった地域の森林管理を行っており、法人税が負担となっている。(事務局)

・市では税のかからない地縁団体への移行を指導しているか。(委員)

→地縁団体は新しい制度で、総務課が担当している。一部の生産森林組合が地縁団体へ移行しているが、統一的に指導していく事も必要かどうかも含めて検討する必要がある。(事務局)

・税制の問題であれば、国、県を巻き込んで検討する必要がある。(委員)

・「税金を払うために税金を払うのはおかしい」との表現は適さないので変えて欲しい。自分の山がどこにあるかわからない若者が増える中で、林地台帳の整備が進んでいるのでPRしてほしい。林業に対する施策は幅広いので、まとめて検討する機会を設けてほしい。(委員)

・「税金を払うために税金を払うのはおかしい」の表現は、検討して改める。(事務局)

<温泉施設管理> B班代表 鈴木会長より

・伊那市観光株式会社の株主は誰か。(委員)

→市が主な出資者で銀行と伊那バスに出資いただいている。収支はほぼ均衡している。ここ数年赤字が続いており、以前黒字だった部分を切り崩している。宿泊施設が赤字の主な原因としている。(事務局)

・赤字対策はどのようにしているか。(委員)

→指定管理で独自性を持ってやっている。社長は市長なので市長が旗振りすることとなる。黒字となるよう指導している。(事務局)

- ・市長が片手間で行える職務ではないと感じる。専任が必要。(委員)
- 議会からも一部意見をいただいている。観光的な側面と市民の福利厚生側面がある。ふさわしい方があればお願いしてもよいとしているが、現況難しい。(事務局)
- ・入館者が減っている中で、使用料を下げれば人は増えたが収入は減り、収入で賄えないのであれば民間では厳しい。人口が減る中で、観光でやるのか福利厚生でやっていくのか方針を定めて検討する必要がある。市民がどのように考えているのか把握する必要があり、市民を交えてワークショップを行っている自治体もある。(委員)
- ・役員が内容をチェックできているか。(委員)
- 専門に携わる専務がいて、サービスの見直しをやっているが、届いていない部分もあるかもしれない。(事務局)
- ・みはらしの湯へ行った人からはそばが出てくるのに1時間かかったとの話もある。実態を確かめるなど、食事のメニューも変えるべきで、見直しについてもアドバイザーを入れるべき。(委員)
- ・市有財産であるが、市長が社長は再考すべき。多忙な人では管理できない。(上野山会長)
- ・職員から社長の見直しは提言できるか。(委員)
- ・審議会の意見であればよいが、職員から提案することは難しいのでは。(委員)
- ・審議会の意見として報告時に補足で申し上げることとする。(上野山会長)

<新産業技術推進事業> B班代表 鈴木会長より

- ・ドローンはスタート段階であるが、地域住民の役に立てる方向が不透明。バスの運行実験も、真の目的は不透明に感じる。目的と将来を見据えてどんな役に立つのか見えにくい。(委員)
- ・成果が出ないと評価できないのが正直なところ。国で検討するレベルか、市町村でやるべきかわからない。ベンチャーはここをフィールドとするだけで、世界での活動を目指している。そうした餌食にならないようにしっかりPDCAをまわして欲しい。(委員)
- ・一般の方の理解度がどれくらいあるかは疑問に感じているが、新産業技術の活用に対して反対する意見が出されない状況にある。ドローンなどの事故が懸念されるので、事故の割合についても説明して欲しい。ドローンは犯罪にも使える中で、良い方向へ使った時にどの程度役に立つのかよくわかっていない。新しい技術なので止めてしまってもったいないと思う。(委員)
- ・現段階での評価は難しいので、現状維持とする。(上野山会長)

(2) その他

- 長藤健康増進施設 ー資料に基づき説明(事務局)ー
(意見、質問なし)

4 その他

- 今後の日程について ー資料に基づき説明(事務局)ー
(意見、質問なし)

5 閉 会(上野山会長)

以 上